

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解させることで、見通しをもって主体的に観察・実験に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・問題を読み取る力が弱いので、科学的用語を覚えることができるように工夫したり、プレテスト等を扱ったりして問題の解き方に慣れる必要がある。
- ・課題に対して自分なりの予想を立てさせ、その予想をもとに実験に取り組ませる必要がある。
- ・考察では、実験結果をもとに課題に対してわかったことや気付いた事を書けるようにする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	目標値を7.9ポイント下回った。		
第5学年	目標値を5.4ポイント下回った。達成率は2.1ポイント下回った。	目標値を3.4ポイント下回った。達成率は昨年度より14ポイント下回った。	令和3年度の4年生の目標値を1.9ポイント上回った。
第6学年	目標値を3.5ポイント下回った。達成率は7.2ポイント下回った。	目標値を3.9ポイント下回った。達成率は昨年度より0.4ポイント下回った。	令和3年度の5年生の目標値を2.6ポイント下回った。達成率は昨年度より8.4ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4年生は目標値を7.6ポイント下回った。方位磁針の使い方が身に付いていない児童が多い。	4年生は目標値を8.3ポイント下回った。実験結果から共通点と差異点を見いだすことや、推測して説明することができる児童が少ない。	4年生は目標値を11.7ポイント下回った。実験結果から考えられることや自分の考えを説明できる児童が少ない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5年生は目標値を1.4ポイント上回った。実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解している児童が多い。 6年生は目標値を5.1ポイント下回った。全単元において、科学的用語を使って答えることができる児童が少ない。また、顕微鏡の使い方が身に付いていない児童が多い。	5年生は目標値を6.8ポイント上回った。正しく観察する方法やグラフから読み取って説明する力が身に付いている児童が多い。 6年生は目標値を9ポイント下回った。グラフや問題文の中から大切な箇所や注意すべき箇所を読み取り、具体的に示すことができる児童が少ない。	5年生は目標値を6.2ポイント上回った。身の回りの事象や環境を教材とし、自然の秩序や規則性に気付き、説明することができる児童が多い。 6年生は目標値を4.5ポイント下回った。実験結果から考えられることや自分の考えを説明できる児童が少ない。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>実感を伴った理解になるよう、児童が自らの感覚をはたらかせ、観察・実験などの具体的な体験活動に取り組む。</p> <p>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録させる。</p> <p>事象提示を工夫したり日常生活とのつながりに気付かせたりするなど、指導の工夫を行う。科学的用語を覚え、活用させる。</p>	<p>学習問題・予想・観察・実験・結果・考察・結論・感想といった学習手順を理解させる。観察・実験の結果から分かったことを、提示されたキーワードで自分なりにまとめ、表現させる。</p> <p>児童の ICT 機器の活用技能を高め、写真や動画を活用して、考えをまとめることができるようにする。</p>	<p>植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動に取り組みせる。観察したり、調べたりすることにより生命の神秘性や連続性に気付き、体験を通して自然を愛する心情を育てる。</p> <p>学習したことを、生活場面に結び付けられるようにする。</p>

#### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>実感を伴った理解になるよう、自然の事象・現象について調べる。また、正しく科学的用語を使えるように指導する。</p> <p>見通しをもって主体的に観察・実験に取り組みせる。そのために、実験器具の正しい使い方や実験手順を十分に理解させる。</p> <p>学習課題を明確にしてから、予想・観察・実験・結果・考察・結論・感想を踏まえ、学習内容を理解させる。</p>	<p>観察・実験などの体験活動を充実し、問題・課題を意識させる。学習問題・予想・観察・実験・結果・考察・結論・感想といった一通りの学習手順を理解させる。</p> <p>考察では、実験結果をもとに課題に対してわかったことや気付いたことを書けるように、課題に対して自分なりの予想を立てさせ、その予想をもとに実験に取り組ませる。</p> <p>児童の ICT 機器の活用技能を高め、写真や動画を活用し、考えをまとめることができるようにする。</p>	<p>身の回りの事象や環境を教材とし、自然の秩序や規則性に気付かせる。自然の事物・現象に関心を深めつつ、そこから問題意識を醸成するように意図的な活動を工夫する。</p>